

トルコリラと休むも相場

市場はなぎ状態だ。ユーロをはじめ多くの通貨でボラティリティーは低水準にある。BREXIT の不確実性が覆うポンドでさえもそうだ。ディーラーもこうなるとイースターの休暇を長くとる者が増えるかもしれない。「休むも相場」だからそれもいい。

だが全体の安定の陰に隠れ一見安定しているように見えるが、実は不安定な通貨もある。その一つはトルコリラだ。

リラは先月終わりごろ急落し、リラのショートポジションをキャリーするためのスワップポイントが跳ね上がった。当局が国内銀行に外国金融機関への貸し出しを制限したからだ。それでリラのショートポジションがあぶり出されリラは戻した。金融当局も改革を約束した。財政規律、国内金融機関の支援、インフレ対策などについてだ。エルドガン大統領の娘婿の財務大臣が責任者だ。

その財務大臣は先週ワシントンでの G20 会議に出席したが、JP モルガン銀行主催の講演も行った。JP モルガンと言えば、トルコ当局が先月のリラ急落の元凶として取調べをすると息巻いたアナリストが所属する金融機関だ。外貨準備の急減などの理由でリラ売りを推奨したのが統一地方選挙前のエルドガン政権の怒りを買ったのだ。

彼の講演は盛況だったようだが、改革案について具体的な話はなく、聴衆の失望を買った。それでドルリラは週初 5.80 を超えるまでリラはドルに対して売られた。これは先月終わりの急落の際のリラ安水準を上回るものだ。直近では 5.77 とやや戻している。

このように最近のリラは変動しやすい通貨だ。イスタンブールの選挙結果を巡る政治的判断、外貨準備の動向、インフレ率の水準、経常収支の動向、それに影響する原油価格の推移などリラの変動要因は多く、市場全般のなぎ状態にどっぷり浸かってしまうと市場についていけなくなる。

休むのもいいが、リラなどを見ながら次の為替の変動期に備えるのも一つの手だ。